

在外研究経過報告

金 容 媛

【要旨】「2003年度駿河台大学在外研究派遣プログラム」により2003年8月22日から2004年8月24日まで1年間米国イリノイ大学図書館情報学大学院および韓国延世大学文科大学文献情報学科にて研究を行った。研究課題は両国における(1)図書館情報政策に関する研究（特に政策諮問機関および情報専門職団体の役割を中心に）、と(2)図書館情報学および記録管理分野の教育状況に関する研究（主な教育機関のカリキュラムを中心に）として、文献研究と訪問調査を行った。今後資料等に基づく研究成果は論文として発表する予定であるが、本稿はその前の経過報告としてまとめたものである。

【キーワード】 図書館情報政策、図書館情報学教育、記録管理教育、米国、韓国

1 はじめに

米国での9ヶ月間（2003年8月22日—2004年5月22日）は上記の研究テーマについて主にイリノイ大学図書館情報学大学院及び国際図書館プログラムセンターにて文献調査研究を行った。イリノイ大学図書館は1千万冊のコレクションをもつ全米有数の大学図書館であり、同図書館情報学大学院は全米トップのライブラリースクールとして、米国での研究・調査において強固な基盤を提供してくれた。滞在資格は訪問研究員であったが、同大学院・センター主催の各種プログラム、セミナー、ワークショップ等すべてに参加でき、また、同大学院で開講される科目の聴講（秋学期2科目、春学期2科目）もできるよう配慮していただいた。また、大学院の会議や図書館教員の会議にも出席できるよう特別な計らいをいただいた。その他、他大学や図書館等関連機関の訪問、各種関連会議の参加・発表等も積極的に支援していただいた。

韓国延世大学文科大学文献情報学科では3ヶ月間（2004年5月25日—8月24日）の短期間であったが、上記の研究課題に関する文献調査および訪問調査を行った。また客員教授として特別講義お

よび学生達を指導する機会を与えていただいた。

2 研究経過報告

2.1 研究課題(1)：図書館情報政策に関する研究—特に政策諮問機関および情報専門職団体の役割を中心に—

国家政策としての図書館情報政策を総合的にとらえ、組織的な研究を行った。その中で政策形成に影響を及ぼす要因と政策形成に参加する主体の性格及び役割など、その形成における諸問題を検討した。特に、政策形成・評価の段階で政策の質と効率性の向上のためにその役割が重要視される政策諮問機関・情報専門職団体の機能などについて事例調査を行った。国の政策及び政府組織は変化に対応し流動的であるため、文献上にそれが依拠する一貫した論理・思想を見出すことは困難である。調査方法としては利用可能な各種資料と法令に基づいた文献調査と研究者・専門家からの聞き取り調査を行った。

米国はグローバルな情報社会を実現する諸要因を具備しており、各国が米国の政策をモデルとして想定していること、米国政府が新規の政策を絶

えず提唱して世界の主導的な立場にあることから、事例研究上、必須の対象国である。

米国では、政策諮問機関としては、大統領の諮問機関である「図書館および情報学に関する国家委員会 (National Commission on Libraries and Information Science : NCLIS) を、専門職団体として米国図書館協会 (American Library Association) 本部 (Chicago) およびALA Washington Office (Office for Government Relations (OGR), Office for Information Technology Policy (OITP) を訪問調査した。また国家代表図書館である議会図書館 (The Library of Congress : LC) (Washington, D.C.), 研究図書館協会 (Association of Research Libraries : ARL) (Washington, D.C.), 研究開発助成機関である図書館情報財団 (Council on Library and Information Resources : CLIR) (Washington, D.C.) を訪問、担当者から直接聞き取り調査を行った。

米国の図書館情報政策の特徴としては、(1)2つの公式的な政府組織、すなわち教育省と大統領直属の諮問機関NCLISが、法律により図書館情報政策を計画・実行している、(2)連邦政府と州政府の分立により制度と発展度は州によって異なる、(3)連邦政府、議会図書館、国立医学図書館、国立農学図書館などの国立図書館、州の図書館機関や多様なサービスを行っている民間機関などの間の協力・調整関係をもっている。民間の情報サービス関連機関は情報産業協会 (IIA) など強力な団体が組織され、行政府および議会に対し活発な働きかけをしている、(4)独立した研究開発助成機関として図書館情報財団 (CLIR) と専門職団体である米国図書館協会 (ALA) などが活発な活動をしていることが挙げられる。

2001年度には米国の知識情報化推進に関する政策として、大統領情報技術諮問委員会 (President's Information Technology Advisory Committee : PITAC) が政策報告書の中で、21世紀の社会発展の核心要素である情報技術により変化が予想される10分野 (図書館分野も含む) の目標を提示している。

韓国では、教育人的資源部と文化観光部などを中心として図書館行政が行われており、図書館情報政策に関する諮問は文化観光部長官の諮問機関である「国家図書館政策諮問委員会 (図書館及び読書振興委員会を2002年改組)」が行っている。新しく制定された「知識情報資源管理法」により政府の各部署間の調整を図るため12部署の次官で構成される「知識情報資源管理委員会」が発足した。国策研究機関・教育機関と、専門職団体である韓国図書館協会が積極的な活動を行っている。

2.2 研究課題(2) 図書館情報学および記録管理分野の教育状況に関する研究

—主な教育機関のカリキュラムを中心に—

文献調査とともに主な図書館情報大学院を訪問、調査を行った。

米国の図書館情報学教育の特色

・米国図書館協会 (ALA) による図書館情報学プログラムの認定：56大学 (カナダの6大学を含む)

1924年：認定委員会 (Committee on Accreditation) 設置

1972年：認定基準改訂 (ALA, ASIS, SAAの共同で基準の見直し)

図書館学、情報学、ドキュメンテーションも含む、学部の教育目標実現のためカリキュラムの明示化、専門化も含めた種々のカリキュラム奨励、歴史学、経営学、音楽等の学問分野と協同でカリキュラムを開発、2種の修士号を授与するジョイントプログラムの増加。

・学部課程を含めた200以上の教育機関が図書館情報学の教育を行っている。ALAの認定条件を満たしていない修士課程も10存在する。研究者・教員養成の博士課程を設置しているのは21大学である。(American Library Directory, ALA, 1996)

・履修期間はサマーセッションを含めて1年、36単位が一般的である。

今回は主な図書館情報大学院で行われている図書館情報学プログラムと記録管理プログラムのカ

リキュラムを調査した。Web Site分析と文献調査により、記録管理教育を実施している図書館情報大学院の所属および名称、学位課程および授与学位、履修単位、必須科目および選択科目、実習、研究などを調査した。対象の選定は、SAA (Society of American Archivists) のDirectory of Archival Education Listing (2002) の中から、米国図書館協会が認定した図書館情報学大学院12を選定、次に、US News and World Report (1999) のRankings in Archives and Preservationでの上位10の大学、合わせて15の大学院を選定した。

米国の図書館情報学大学院の中で13の大学院 (Catholic Univ., Long Island Univ., Louisiana State Univ., Pratt Institute, Simmons College, SUNY, UCLA, Univ. Maryland, Univ. Michigan, Univ. North Carolina, Univ. Pittsburgh, Univ. Texas, Univ. Wisconsin), カナダでは2つの大学院 (Univ. British Columbia, Univ. Toronto) が記録管理を特性化 (Specialization), 課程 (Master's Program), 重点化 (Concentration) またはプログラム (Certificate) という名称で教えている。図書館情報学大学院の名称も, School of Library and Information Science (SLIS), School of Information and Library Science (SILS), College of Information Studies, School of Information, Faculty of Information Studies, School of Library, Archival and Information Studies (SLAIS), Graduate School of Education and Information Studies (GSEIS), College of Information and Computer Science, School of Information Science and Policyなど, 多様である。

記録管理・アーカイブズ分野を特性化・重点化して教育を行っている大学院でのプログラムの名称も多様である。Specialization in Archives and Records Management, Concentration in Archives Management, Records Management Concentration, Archives Management Program, Archives and Record Administration Concentration, Specialty on Archives, Records and Information Management, Moving Image Archive

Studies, Archival and Records Management Specialization, Archives Administration, Archival Studies, などであり、それらの名称はそのプログラムの特徴を表していると考えられる。

学位名称の大部分が図書館情報学修士 (Master of Science in Library and Information Science (MLIS) で8校あり, Master of Science in Information Science (MSIS), Master of Science in Library Science (MSLS) が各2校, Michigan大学はMaster of Informationの学位を与えている。Simmons CollegeとMichigan大学等は細部専攻名称を記録管理, アーカイブズまたはアーカイブズおよび記録管理と明示している。また歴史学部と二重 (Joint, Dual) 学位課程を有する大学は5校, 法学 (Pratt), Computer Science (Louisiana), UCLAは歴史学のみならず経営学, 南米学, Film and Televisionの二重 (Joint, Dual) プログラムを有している。図書館情報学と歴史学との二重学位課程がもっとも多い。

履修単位数は, 36単位が8校, 40単位が3校, 42単位と48単位が各2校, 科目数は9科目 (科目当たり4単位) から16科目 (科目当たり3単位) となっている。二重学位のためには, 64単位 (Louisiana), 56単位 (Simmons), 69単位 (North Carolina) を履修するようになっている。米国には, 図書館情報学大学院以外に, 歴史学大学院に記録管理・アーカイブズプログラムが多い。

韓国では13の大学が記録管理分野の教育を行っているが, 大学院文献情報学科 (図書館情報学) または大学院の学科間の協同課程として行われている。

慶南大学 (歴史学, 行政学)

公州大学 (国立) (文献情報学, 史学, 歴史教育, 行政学)

明知大学 (記録科学大学院, 記録管理学専攻)

木浦大学 (歴史学, 行政学)

釜山大学 (国立) (文献情報学, 史学, 行政学, 新聞放送学, 法学, 歴史教育)

ソウル大学 (国立) (国史学, 法学, 行政学, 歴史教育)

圓光大学 (史学科) 独立課程

清州大学 (文献情報学科) 独立課程

忠南大学 (国立) (国史学, 文献情報学, 史学)

韓国外国語大学 (行政学, 歴史学, コンピュータ工学)

漢南大学 (史学, 文献情報学科, 行政学)

延世大学 (文献情報学科) 独立課程

梨花女子大学 (情報科学大学院, 記録管理学専攻)

協同課程の場合, 歴史学, 文献情報学, 行政学の参与がもっとも多く, 大部分が歴史学と文献情報学を中心に記録管理の教育が行われている。また「記録管理学」という専攻名称を使っている大学は10校, 「記録保存学」「情報記録管理学」という名称を使っている大学もある。授与学位は明知大学を除いた大部分の大学では記録管理学修士ではない, 文学修士, 行政学修士, 情報科学修士学位を授与している。修士課程の履修単位は24単位 (1科目3単位, 8科目) となっている。

3 おわりに

在外研究期間中に収集した資料等は, 今後整理, 分析する予定である。期間中に得た知識や経験等は学部・大学院の講義に反映し, 資料等に基づく研究成果は紀要等に論文として発表できればと考えている。在外研究の機会を与えてくださった駿河台大学, 多くの支援と配慮をいただいたイリノイ大学図書館情報学大学院・国際図書館プログラムセンターおよび延世大学の諸先生方に心より感謝の意を捧げたい。

添付資料:

a. 在外研究期間中訪問調査を行った機関:
米国

- (1) National Commission on Library and Information Science (NCLIS), Washington, D.C.
- (2) Council on Library and Information Resources (CLIR), Washington, D.C.
- (3) American Library Association (ALA) Washington, D.C.

(4) Association of Research Libraries (ARL), Washington, D.C.

(5) The Library of Congress (LC), Washington, D.C.

(6) American Library Association (ALA), Headquarters, Chicago

(7) Center for Research Libraries (CRL), Chicago

(8) National Library of Canada, Ottawa, Canada

(9) National Archives of Canada, Ottawa, Canada

(10) Record Management Association of Canada, Ottawa, Canada

(11) University of California at Los Angeles (UCLA), Graduate School of Library and Information Science/University Library

(12) Indiana University, Graduate School of Library and Information Science/University Library. Bloomington, Indiana

(13) University of Pittsburgh, School of Information Sciences/University Library

(14) University of Oklahoma, Graduate School of Library and Information Science/University Library

(15) University of Toronto, Graduate School of Library and Information Science/University Library

(16) The Rutgers. The State University of New Jersey, Graduate School of Library and Information Science/University Library

(17) Illinois State Library, Springfield, Illinois

(18) Chicago Public Library

(19) New York Public Library

(20) Los Angeles Public Library, etc.

韓国

(1) 延世大学文科大学文献情報学科及び同大学院 (ソウル)

(2) 梨花女子大学人文大学文献情報学科及び同大学院 (ソウル)

(3) (国立) 釜山大学社会科学大学文献情報学科

及び同大学院（釜山）

- (4) 国民大学中央図書館（ソウル）
 - (5) 国防大学中央図書館（ソウル）
 - (6) 韓国科学技術情報研究院（ソウル）
 - (7) 韓国国立図書館（ソウル）
 - (8) 韓国図書館協会（ソウル）
- b. 在外研究期間中出席した学会・大会・会議等：
- (1) 2003 Annual Conference Illinois Library Association, (Oct. 14-16, 2003, Springfield),
 - (2) Conference on the Future of the Library, University of Illinois. (Oct. 30-31, 2003, Urbana-Champaign)
 - (3) 2004 Annual Conference Association for Library and Information Science Education (ALISE) (Jan. 6-9, 2004, San Diego, CA)
 - (4) 2004 American Library Association Midwinter Meeting (Jan. 9-14, 2004, San Diego, CA)
 - (5) 2004 Annual Meeting Council of East Asian Libraries (CEAL) (March 2-5, 2004, San Diego)
 - (6) 2004 Annual Conference University of Oklahoma Libraries (March 4-5, 2004, Oklahoma)
- c. 在外研究期間中に行った研究発表，講義，講

演等：

- 米国
- (1) [Libraries and Librarianship in Japan], 2003 Annual Conference Illinois Library Association, (Oct 16, 2003)
 - (2) [Current Status of Academic Libraries In Japan], University of Illinois at Springfield Library (Oct. 23, 2003)
 - (3) [Academic Libraries and Academic Information Infrastructure in Japan], Graduate School of Library and Information Science, University of Illinois (April 15, 2004)
 - (4) [Public Libraries and Librarianship in Japan], Chicago Public Library ASID (May 5, 2004)
- 韓国
- (5) 延世大学文献情報学科特別講演「日本の図書館情報学教育の現状」2004年5月28日
 - (6) 国防大学中央図書館主催特別講演「日本の図書館現況」2004年7月20日
 - (7) 韓国科学技術情報研究院知識情報センター主催特別講演「主要国の科学技術情報政策」2004年8月9日
 - (8) 国民大学中央図書館主催特別講演「日本の大学図書館と学術情報システム」2004年8月20日

An Interim Report of Overseas Research Program grant-funded by Surugadai University for the year 2003

By Yong Won KIM

[Abstract] During the period of August 2003 to August 2004, due to the research grant provided by Surugadai University, the author conducted research at Graduate School of Library and Information Science, University of Illinois at Urbana-Champaign in U.S. and Graduate School of Library and Information Science at Yonsei University in Korea. Research topics are (1) Library and Information Policy, and (2) Library and Information Science and Record Management Education in U.S. and Korea. The research result will be published in academic journals. The experience and knowledge gained during the period, not only theoretical but also practical aspects, will be expected to contribute in updating my classes of [Library and Information Policy], [Information Resources Management] etc. for undergraduate and graduate level and also updating our curriculum related to Library and Information Science and Record Management.

[**Key Words**] Library and Information Policy, Library and Information Science Education, Record Management Education, U.S.A., Korea